

東播支部だより

歴史ウオーク (高御位山登山)

隊友会東播支部石田支部長以下12名は令和7年11月8日(土)9時45分兵庫県加古川市志方町成井登山口の駐車場に集合して高御位山登山を行いました。

標高304mのこの山は別名「播磨富士」と呼ばれ、東播磨丘陵地高御位山系の連峰は播磨アルプスとも呼ばれることがあります。難易度はルートによって異なります。難易度はルートによって異なります。特に濡れているときは滑りやすく注意を要する山です。

いくつかある登山路の中で、お子様や女性等初心者の方でも登りやすいため安心して登山が出来るルートとして成井登山ルートがあり、今回はこの経路で登りました。このルートは約25年前頃にルート整備として石段を作り1丁から18丁までの石柱がたてられており、ところどころにベンチも設けられています。

第91号
発行所
公益社団法人
兵庫県隊友会
東播支部
0790-49-3027
発行責任者
桑原 博



「高御位山神社にて集合写真」



「高御位山頂上からの眺望」

今回参加した会員は70歳を超える方も多く、ゆっくり一歩一歩着実に登ることを心掛けました。

時間をかけて登った先には、印南郡の中で最も早く神を祭ったと言われる高御位神社があります。この神社は大国主命(おおくにぬしのみこと)を主祭神とする高御位大明神が祭られています。また、古文書「播磨国印南郡高御位山略縁記」には神がここに降臨されたと記されており、加古川市を代表する「パワースポット」です。

また、鎌倉時代末から南北朝時代の播磨の国の地誌である「峰相記」に高御位神社の神と生石(おうしこ)神社「別名・石の宝殿」と呼ばれる神社の女神は夫婦であるとの記述があるそうです。

皆さんはそれぞれに神社にお参りした後、山頂の岩山に上り、明石海峡大橋、関西国際空港、六甲山、四国方面などが見渡せる絶好の景色を堪能しました。また、眼下を見渡すと紅葉も始まったばかりですが、真っ赤な紅葉の木が点在し、秋色に染まろうとしている風情ある景色を楽しむことも出来ました。

今回の登山で会員の皆さんは神様のパワーをどれだけ頂くことが出来たのかわかりませんが、

下山後の解散前の会員の表情はとも爽やかで清々しい表情をされていました。

担当としては、10月末に少し離れた地域でクマ出没情報が出ており、実施について非常に悩みましたが、登山客も多く(当日朝の駐車場は満杯)その後のクマ出没情報もなかったことから、決行することとしました。会員の中にはクマよけの鈴、警笛等色々なものを身に付けておられる方もいましたが、何事もなく終了することが出来て良い思い出となりました。

事務局長 細貝 寛徳



「下山後の参加者による集合写真」

令和7年度 隊友会 東播支部忘年会

隊友会東播支部 石田支部長
他18名は令和7年11月22日16時
30分から東加古川駅南東200mの
割烹「辨慶」において、令和7
年度の支部忘年会を開催した。

開催にあたり、石田支部長か
らまだ年度の途中ではあるもの
の、今後の大きな事業を一つ残
してはいますが、総会前のサツ
マイモ収穫の為の畑整備、総会
の日の植付、害獣対策・草刈り・
畑内の草抜き、害獣被害による
植え直しを畑近隣の支部役員・
会員の協力を頂いて猛暑の中で
作業を進め、収穫祭を盛大に執
り行うことが出来たこと、慰霊
碑清掃・慰霊行事、近隣でのク
マ出没の情報の中で行った歴史
ウォーク（高御位山登山）等へ
の参加で各行事を盛り上げて頂
いたことへのお礼の言葉を頂き
開宴となりました。

今年、県から小川会長と役
員である中筋次長に参加いた
きました。

また、今年参加した会員では
退職後初めて淡路から初田雅文
会員が参加してくれて、青野原
駐屯地出身の会員との懐かしい
昔話で盛り上がりました。



宴の中で県の小川会長から
「我が兵庫県隊友会の中でも、
活発に活動してくれる支部とし
て本当にありがたい。この勢
いを続けてほしい。そして、来
年も参加します。」とのありがた
いお言葉を頂きました。

また、中筋次長は兵庫県隊友
会のホームページ担当として県
隊友会や各支部からの投稿記事
を発信して頂いています。その
中筋次長から「東播支部は、全
国でもトップクラスの投稿記事
の発信をしてきています。県
としても本当にありがたい存在
です。」とお言葉を頂き、今後
も投稿記事の発信を頑張ってい
たいと思いました。



参加者による集合写真

事務局長 細貝 寛徳

参加者は、今年のみならず近
年の反省を基に今後の活動につ
いて熱弁を振るい、来年以降の
抱負を織り交ぜながら食べて・
飲んで・気が付けば開宴から
4時間を超えるまで盛り上が
った忘年会となりました。
この勢いのまま令和7年度の
残りの行事も突っ走って、令和
8年度を新たな気持ちで迎えた
と思います。
我々は支部会員の気持ちを一
つにし、隊員や隊員家族の幸せ
の為に、支部の会員増加を目指
した活動を基本として頑張っ
ていきます。

第12回小野ハーフ マラソン2025支援

兵庫県隊友会東播支部 石田真一支部長以下14名は12月7日(日)に実施された第12回小野ハーフマラソン2025を支援した。

この大会のエントリー種目は、

ハーフマラソン、1.5Km高学年、1.5Km低学年、中学生以上5Kmマラソンがあり、今年は過去最多の5817名が参加して大会を盛り上げました。各組のスタートは9時30分から9時50分の間にハーフマラソンから逐次スタートし、その後すぐに1.5Km高学年、1.5Km低学年、5Kmの順にゴールが始まり、12時30分までそれぞれの組で完走した選手の出迎え・誘導を行いました。隊友会の支援内容については選手招集からスタート位置誘導・警備、完走者対応の他に雑踏整理、ハーフマラソン組が発走後のコーンの再設置、スタート位置のゴミ回収等多岐に渡る任務です。

早朝、7時30分に小野市役所駐車場に集合し、大会役員との最終打ち合わせを行った後に支援が始まります。



「赤星 大会会長 挨拶」



「大会役員との最終打ち合せ」



「1.5km低学年 スタート風景」



「ハーフマラソン スタート風景」

朝9時過ぎから開会式が行われ、小野市長の挨拶、赤星大会会長の挨拶の他、来賓紹介の中で阪神の選手(狩野恵輔選手、俊介コーチ、原口文仁選手、石井大智選手)、オリックスの選手(Tー岡田選手、曾谷龍平選手、中川圭太選手)、元陸上の中距離選手の小林祐梨子選手、平成30年アジア競技大会マラソン銀メダリストの野上恵子選手が紹介されました。

毎年色々な選手が参加して大会を盛り上げてくれるのも楽しみの一つとなっています。東播支部は第1回大会から欠かさずにボランティアとして支援しており、既に、今回で12回目を迎えた今年も、昨年までの反省事項を修正して大会運営に臨んでいます。ですが、それでも、問題点が出てきます。

来年はその問題点を更に修正して参加者・大会運営者が満足できるような大会運営を推進するものと思えます。

本大会には、青野原駐屯地からハーフマラソンの先頭車(誘導)と最後尾車による運営支援を行っています。また、先頭車と最後尾車を無線で繋ぎ、非常事態による連絡手段として万全の態勢で支援をしています。

会員による支援風景



また、売店等が展開している
広場には、兵庫地方協力本部の
募集案内のテントも設置され、
将来の自衛官獲得を目的とした
アンケート・自衛隊グッズの抽
選を行って集客を行っていまし
た。
この大会は、阪神の赤星選手
がアンバサダーを務め、多くの
プロ野球選手と一緒に走る大会
として知名度も上がっており、
大会参加者も少しずつ増えてい
る状態です。

支部の活動実績

- 1月16日 青野原駐屯地新春互礼会
支部長以下数名参加
- 1月17日 第2回支部防災訓練
(緊急連絡網の点検)
理事役会
- 1月24日 支部長以下19名参加
サツマイモ畑の畝戻し
支部長以下13名参加
県隊友会支部長等会議
・
#3 県理事役会
支部長・県理事役
- 2月14日

理事役 鈴木 栄一

我々隊友会の活動は参加選手
には認知されていませんが、大
会運営側からは信頼される活動
が出来ている様子を随所で伺う
ことが出来ています。その為、
終了時には支援に対する丁寧な
お礼の言葉もいただいています。
我々は表舞台に出るのではな
く、常に裏方に回り、大会が盛
会なうちに滞りなく終了して初
めて任務達成したと思える活動
をすることが大切であり、これ
からも支援者全員が心を一つに
して活動して行きます。

【新入会員紹介】

- 森下 哲也 (三木市) 青野原駐業
令和7年4月4日退官
- 西田 健 (加東市) 兵庫地本
令和7年7月29日退官
- 小山 勝也 (加古郡) 第3特防
令和7年11月30日退官
- 岩田 匡宏 (加古川市) 中万後支
令和7年12月27日退官

【訃報】

謹んでご冥福をお祈りいたします
上田 培夫 (享年89歳)
令和8年1月4日ご逝去

編集後記

桜の花が咲く頃となりました、
会員の皆様におかれましては益々
ご健勝のことと存じます。
令和7年度も終わりを迎え、
来月から新年度に移行します。
令和8年度も、昨年度と同様
皆様からの引き続きのご支援・
ご協力並びに多種多様な投稿を
お待ちしております。

mrxg983@yhb.ne.jp

桑原 博

hayato.0309.0722@gmail.com

和久井 勇人